

ネットワークボード

ロシアによるウクライナ侵攻は日々激しさを増しています。国連障害者権利委員会によると、ウクライナ国内には約270万人の障がい者がおり、その大半の安否が不明とのこと。この両国とも、障害者権利条約に批准しているにもかかわらず、掲げられた「武力紛争下における障がい者の保護と安全の確保について適切な措置をとる義務」を果たせていません。多くの人たちが重要な支援網から切り離され、今なお、自宅や居住施設に取り残されています。ぱれっとでは、一日も早い収束を願いつつ、国を越えて障がい者支援に取り組む、「難民を助ける会」への寄付をお願いしています。(編集部)

【ウクライナの障がいのある人たちへのご支援をお願いします】

戦争は、障害者を邪魔ものにする
 戦争は、障害者を置き去りにする
 戦争は、優生思想をかきたてる
 大量の障害者をつくり出す最大の悪、それが戦争

(「日本障害者協会」公式サイトより)

◆【資料】インクルージョン・ヨーロッパ
 【ロシアのウクライナ侵攻から1ヶ月、知的障がい者の家族の証言集】


<http://www.jdnet.gr.jp/opinion/2021/220228/220325j.pdf>

◆【寄付呼びかけ】AAR Japan 難民を助ける会
 【ウクライナ危機 緊急支援】 

<https://aarjapan.gr.jp/emergency/2022ukraine/>

 **編集後記** 

出会いと別れの季節である4月、おかし屋ぱれっとにも新しい職員が入ってきた。学校を卒業したばかりの彼は、私と10歳ほど年が離れている。振り返ると、私が社会人になった時は同期を除いて周りはほとんどと言っていいくらい年上の職員ばかりであったが、気付けば私も福祉業界に入ってから10年を迎えようとしており、中堅と言ってもおかしくない年になったことを自覚する今日この頃。今まで出会ってきた先輩職員の考え方や姿勢が今の私を形成していると言っても過言ではないことに加えて、彼にとっては社会人としての初めての職場がぱれっとになる。私が今まで大事にしてきたこと、ぱれっとが大事にしてきたことをしっかりとこれから伝えていきたいと考えている。そして、この原稿を書いているあと数日後、先輩職員が退職される。そばにいて下さることが当たり前だったから、正直に言ってまだ自覚がない。優しく、ひだまりみたいな先輩がいなくなってしまうことはとてもとても寂しい。それでも、先輩が今までぱれっとに貢献されてきた想いをしっかり引き継いで、周りのメンバー、職員たちと歩調を合わせて頑張っていきたいと思う。(まつもと)